

北海道大学について より詳しく 知りたくなった方は

▼詳しいデータを知りたい

 「北海道大学概要」

▼北海道大学への入学を考えている

 「大学案内」「各学部案内」

▼旬のニュースを知りたい

  「リテラボプリ」「北大時報」

▼札幌キャンパスを散策したい

  「キャンパスガイドマップ」

▼歴史や研究について知りたい

 「HUSCAP」

 「総合博物館」「附属図書館」

▼北大の研究者のことが知りたい

 「北大の研究者」

  「知のフロンティア」

▼公開講座を受講したい

 「北海道大学公開講座」

▼共同研究・産学連携について知りたい

  「創成ニューズレター」

 「TLO 通信」

上記の各情報については、
北海道大学ウェブサイトでご覧いただけます。

<http://www.hokudai.ac.jp/>

ホームページ右上の「サイト内検索」に
キーワードを入力して検索してください。

インフォメーションセンター「エルムの森」
では、広報誌の配布や、学内で開催される
行事のご案内を行っています。北海道大学
へお越しの際は、まず「エルムの森」へお立
ち寄りください。

お問い合わせ

国立大学法人 北海道大学

総務企画部広報課

〒060-0808 北海道札幌市北区北8条西5丁目

Tel: 011-706-2610 / Fax: 011-706-4870

E-mail: kouhou@jimu.hokudai.ac.jp

2011年9月発行



Hokkaido University Handbook

北海道大学読本



北大を知るなら
まずは、ここから

北海道大学読本

目次

- 03 基本理念と長期目標
- 05 歴史
- 07 組織
- 09 研究・産学連携
- 11 入試・教育
- 13 学生支援
- 15 国際・留学
- 17 財務
- 19 学習機会
- 21 札幌キャンパス案内



札幌農学校初代教頭・W.S.クラークが札幌の地を訪れて以来、
私たちは、その精神に根ざした理念を掲げてきました。
その揺るぎない4つの基本理念は、
今もなお北海道大学の教育研究を支え続けています。

北海道大学を支える、揺るぎない4つの理念。



1

フロンティア精神

フロンティア精神とは、今という時代の課題をしっかりと受け止め、その解決となる新しい道を切り開いていこう、ということです。北海道大学の前身である札幌農学校の開校式で、クラーク博士が唱えた“lofty ambition”（高邁なる大志）という言葉が基になっています。

北海道大学の長期目標より ▶ 21世紀に至り、学問におけるパラダイム転換や新たに提起される人類学的課題に答え得る研究を不断に展開することが、現代におけるフロンティア精神の発現である。北海道大学は、学問の自由を

基礎に、純理と応用の別を問わない創造性豊かな研究を推進するとともに、大学院組織等の柔軟な展開を通じて研究教育機能を飛躍的に発展させることにより、人類史的課題に答え得る世界水準の研究の推進を目指す。



2

国際性の涵養

既存の枠組みや価値観の呪縛を断ち切るには、世界中の国々の、多様な人々の、多様な枠組みや価値観を知ることです。北海道大学は、その前身である札幌農学校の時代から、欧米の文化や最先端の科学技術を導入し、外国人教師による教育を行ってきました。

北海道大学の長期目標より ▶ 教養教育の充実によって自文化の自覚に裏づけられた異文化理解能力を養い、外国語コミュニケーション能力を高め、国際的に活躍できる人材を育成することの必要性はいうまでもない。北海道大学は、学生及び教職員の国際性を涵養し、

国際社会の発展に寄与するため、海外留学・研修の機会を拡大するとともに、外国人研究者・留学生の受け入れを積極的に推進し、アジア・北方圏をはじめとする世界の人々との文化的・社会的交流の促進を目指す。



3

全人教育

次世代のリーダーになるためには、高度な専門知識だけでは十分ではありません。時代や社会を変革するためには様々な人々の共感と協力が必要だからです。そのためには、豊かな人間性を育む幅広い教養が必要です。北海道大学は、札幌農学校の時代から、農業専門家の養成だけでなく、内村鑑三や新渡戸稲造、有島武郎など人文社会分野でも優れた人材を輩出してきました。

北海道大学の長期目標より ▶ この理念をさらに発展させるために、北海道大学は、豊かな人間性と高い知性を涵養する幅広い人間教育を進め、自由・自主独立の精神の涵養と自律的

個の確立を図るとともに、人権を尊重し、社会的要請に的確に対応しうる基盤的能力の育成を目指す。



4

実学の重視

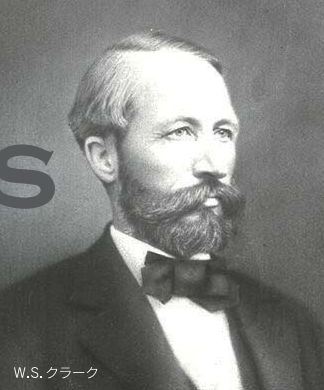
実学とはホンモノ志向ということです。基礎研究においては普遍的真理をあくまでも探求し、応用研究では本当の意味で人類に役立つことを真剣に考えます。この2つの姿勢が求められる農業を学問の対象としてきた札幌農学校から受け継いできたDNAが実学の重視です。

北海道大学の長期目標より ▶ 北海道大学は、実学重視の理念の普遍的かつ今日の意義を追求し、現実世界と一体となった普遍的真理や、北海道の特性を生かした学問の創造を推進するとともに、産学官の連携協働の拡大を通じ

て、研究成果を北海道、さらに日本、世界に還元する。あわせて大学院における高度な専門家及び職業人の養成並びに社会人教育を充実することを目指す。

BE AMBITIOUS

に導かれた、実学の135年。



W.S. クラーク

学問だけでなく、
「人間」をつくる教育

クラークと2人の外国人教師による授業は、英語による口述講義をすべて書き取り、添削を受けるというスタイルで行われ、卓越した英語力はもちろん、幅広い知識と高度な理解力を要求するものでした。一方でクラークは校則について「Be gentleman (紳士たれ)」の一語で足りると言い切り、細かい規則で縛るのではなく、自律の精神を重んじたといえます。このようにしてクラークは、豊かな人間性と高い知性を兼ね備え、広い教養を身に着けた時代のリーダーとなる人材の育成を目指したのです。



▲ クラークの講義を受けた佐藤昌介のノート

時を経て受け継がれる、
クラークの理念

札幌農学校からは、内村鑑三、新渡戸稲造、宮部金吾、廣井勇など実社会における各分野のリーダーとして活躍し、歴史に名を残した人物が数多くいます。中でも一期生の佐藤昌介は、存亡の危機にすら晒された札幌農学校の舵を取り、変革の時期を札幌農学校校長、東北帝国大学農科大学学長、北海道帝国大学総長を歴任し、今日の北海道大学へと導いた人物で、クラークに直接教えを受けた立場からその理念を後世に伝えたといえます。



佐藤 昌介

1876(明治9)年7月31日、50歳を迎えたその日に札幌の地を踏み、それからわずか8か月余りでこの地を後にした札幌農学校初代教頭・W.S. クラーク。彼が去り際に学生に残したとされる「Boys, be ambitious(青年よ大志を抱け)」というフレーズは、あまりにも有名です。クラークが去って130年以上の月日が流れましたが、札幌農学校の後身である北海道大学には、今なお脈々とその精神が受け継がれています。

1876

7月31日、クラークが札幌農学校初代教頭として着任。8月14日に開校式を挙行、北海道大学へと続く歴史が幕を開けた。

1880

第1回卒業式を演武場(現在の時計台)にて挙行。クラークの教えを受けた佐藤昌介ら第1期生13名が卒業した。

1907

札幌農学校が東北帝国大学農科大学となる。6月に札幌農学校としての最後の卒業式を挙行。

1918

北海道帝国大学設置。

1926

創基50周年記念式典挙行。クラーク像はこのとき、札幌同窓会の発議により建てられ、大学に寄贈された。

1976

創基100周年記念式典挙行。

2004

国立大学法人 北海道大学となる。

「札幌農学校」から「北海道大学」へ

札幌農学校は、開拓使の管轄により1876(明治9)年、開拓使の拠点であった札幌市中心部(当時は札幌村)に開校し、以来、東北帝国大学農科大学を経て北海道帝国大学、そして戦後、現在の北海道大学になりました。その間、北海道の急速な発展にともない、人口190万人を擁する大都市となった札幌。その中心部に広がる緑豊かなキャンパスは、学生や研究者だけでなく、多くの市民や観光客に親しまれています。

また、開拓使官吏養成という当初の目的から、札幌農学校は北海道の発展と密接にかかわっていました。技術指導はもちろん、札幌農学校附属第八農場が現在の富良野市の土地を拓いたように、附属施設を建築・開墾することでその発展に直接かかわった例もあります。

1903

新校舎が完成。北1条キャンパスから北8条キャンパスに移転。



▼ 1890(明治23)年頃の旧校舎



1947

北海道大学となる。

▼ 現在の札幌キャンパス



北海道に根ざした グローバル教育研究拠点へ

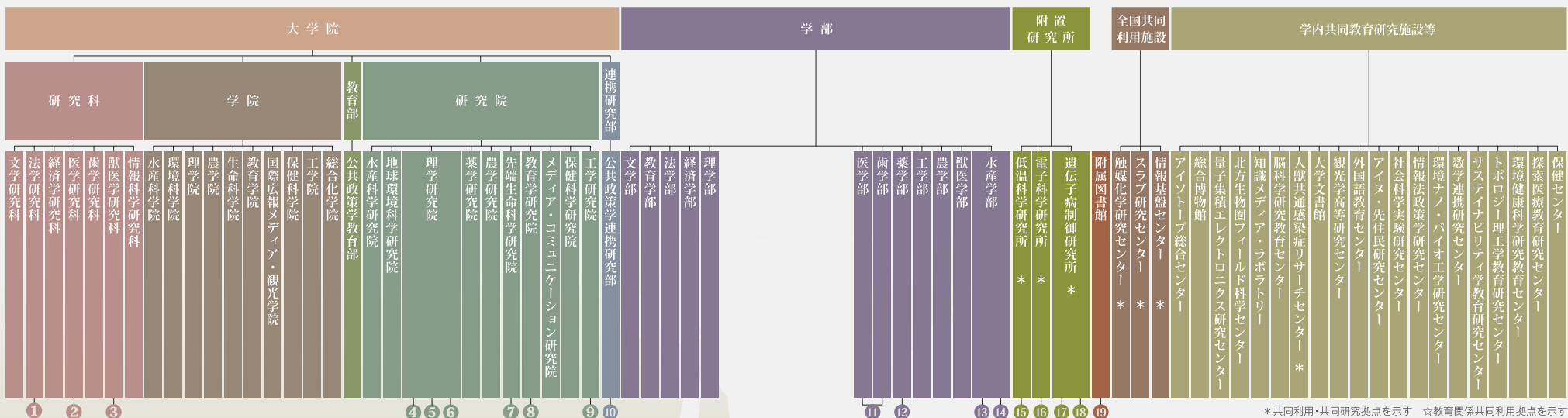
北海道という土地とともに歩みながら、各分野をリードしてきた北海道大学は、創成研究機構を軸とした地域や他研究機関との最先端分野における共同研究、海外オフィスの活用、国際交流協定締結校との連携強化など、教育・研究の拠点として、さらなる活動を広めています。1877(明治10)年4月、クラークが学生たちに叫んだといわれる「Be ambitious」の一言が、北海道大学の原動力です。

**12学部・18大学院、
世界をリードする教育研究等組織。**

国立大学最多の学部数を誇る北海道大学は、人文・社会・自然科学のほぼ全ての領域をカバーしており、日本そして世界をリードする研究分野を擁しています。

この強みを生かし、文理融合の教育・研究を行っているほか、
複数の組織や分野が柔軟に連携することによって、特色ある教育・研究を推進しています。

全学的な各種業務の企画・立案、実施組織				
教育研究支援本部	情報環境推進本部	産学連 携本部	アドミッションセンター	人材育成本部
創成研究機構	国際本部	高等教育 推進機構	サステイナブルキャンパス推進本部	安全衛生本部

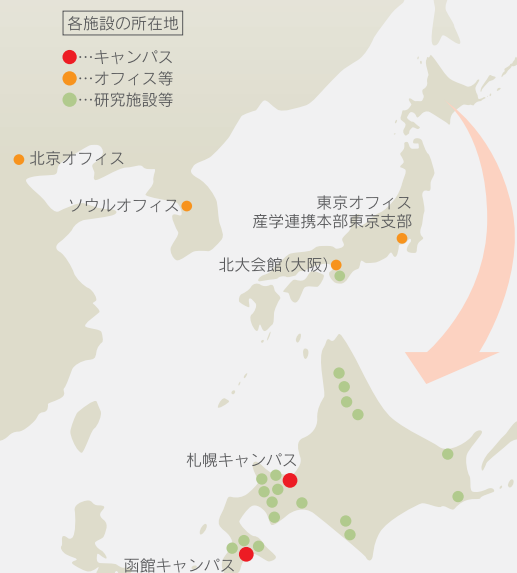


*共同利用・共同研究拠点を示す ☆教育関係共同利用拠点を示す

日本全国から
世界に広がる北海道大学

北海道大学は総合大学でありながら、ほとんどの学生が札幌キャンパスという広大な学びの場集います。また、水産学部生が3年次から学ぶキャンパスのある函館に練習船「おしよる丸」「うしお丸」を有するほか、キャンパス外に植物園や牧場、研究林といった実学の場を多く備えており、その総敷地面積は東京23区よりも広く、日本の国土の約0.2%を占めることとなります。

近年は国内だけでなく海外にもオフィスを構え、国際連携や情報発信の拠点として活用しています。



附属施設等

①高等法政教育研究センター ②動物実験施設 ③動物病院 ④地震火山研究観測センター ⑤ゲノムダイナミクス研究センター ⑥原子核反応データベース研究開発センター ⑦次世代ストゲルム研究センター ⑧子ども発達臨床研究センター ⑨エネルギー・マテリアル融合領域研究センター ⑩公共政策研究センター ⑪北海道大学 ⑫薬用植物園 ⑬練習船おしよ丸 ⑭練習船うしお丸 ⑮環オホーツク観測研究センター ⑯ナノテクノロジー研究センター ⑰動物実験施設 ⑱感染病研究センター ⑲北図書館



東京オフィス

J R東京駅と直結したサピアタワーの10階にあり、教職員の教育・研究や学生の就職活動の拠点として利用されています。また、情報発信の場として、大学情報や入試情報を提供しています。

関連
データ

教職員数：3,917人

学生数：18,227人

役員 10 人、教授 741 人、准教授 618 人、講師 115 人、助教 604 人、助手 15 人、
専門職 6 人、事務職員 806 人、技術職員 1,002 人
(2011 年 5 月 1 日現在)

学部 11,712 人、大学院 6,468 人、研究所等 47 人 (2011 年 5 月 1 日現在)



北京オフィス



ソウルオフィス

「北海道大学ならではの实学」が 世界をリード。 産業界や地域との連携も活発。

異なる分野同士の交流も盛んな、自由かつ大らかな気風、
総合大学の強みである基礎研究の質・層の厚さ、最先端の応用研究、
広大な自然の中でのフィールドワークなど全てが一体となって、
開学以来重視している「実学」―世の中に役立つ学問へと実を結んでいます。
産業界との連携も強固に、北海道大学ならではの実学、世界オンリーワンを目指しています。

世界的栄誉に輝く 北海道大学発の「実学」

学部学生の頃から40年以上北海道大学で研究
を行ってきた鈴木章名誉教授が、2010年ノー
ベル化学賞を受賞―その快挙に大学のみならず、北
海道そして日本中が歓喜しました。

受賞対象となった「有機ホウ素化合物を使った
クロスカップリング」は、他の反応と比べて安定
で毒性がなく、ものづくりの基本となる有機化
成化学の方法論
を一変するもの
でした。医薬、農
業、液晶、有機EL
など、私たちの生
活に身近な製品の
開発や量産化に大
きな貢献を果た
し、まさに、「実学
の重視」を体現し
た研究成果なの
です。



2010年ノーベル化学賞受賞
鈴木章北海道大学名誉教授

世界をリードする ユニークな研究拠点

鈴木章名誉教授をはじめとする世界トップレ
ベルの化学研究。人獣共通感染症という未知の病原体
に関する研究。アイヌをはじめとする先住少数民族
研究。サステナブルな環境研究や農業先端技術研
究のため、大規模・長期的な生態系変動調査を行う
研究林などが全国15箇所にあるほか、様々な分野
でフィールド研究が盛んです。宇宙の起源から金星
探査、はやぶさ帰還試料の分析やロケット開発、氷
の結晶を宇宙でつくるという世界初の実験まで
様々な分野の研究者が宇宙の謎を解き明かそうと
励んでいます。さらに、人工光合成の研究や病気発
症の仕組みを解明することが期待されている蛍光
たんぱく質の研究や、がん撲滅を目指す医療研究な
ど、世界をリードするユニークな研究が数多くあり
ます。

また、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重
点的に支援し、国際競争力のある大学づくりを推進
することを目的とした「グローバルCOEプログラム」
には、これまで7拠点が選出されています。

【右ページ▶ユニークな研究例】1.口径160cmの光学赤外反射望遠鏡「ビリカ」 2.有珠山の火山性ガス調査 3.アメリカ・ニ
アベイ・トライバル ジャーニー 4.CAMUIロケット 5.蛍光たんぱく質「シリウス」 6.練習船おしよ丸 7.モンゴルでの
フィールド調査 8.はやぶさ帰還試料の分析を行った同位体顕微鏡 9.陽子線治療施設（仮称）の模型 10.病原微生物の性
状解析およびワクチン開発 11.オホーツク海での観測

新しい学問領域の創成、 先端的な科学技術の振興

北キャンパスエリアにある創成研究機構は、全学
横断型の研究体制を整え、新しい学問領域の創成と
先端的な科学技術の振興を図るため、グリーン・イ
ノベーション、ライフ・イノベーションなど、北海
道大学における重点的な研究分野の推進や支援を
行っています。

また、創成研究機構では、はやぶさ帰還試料の分
析を行った同位体顕微鏡などの先端的な機器を学
内外の研究者、技術者の方々が利用できる制度
（オープンファシリティ）を実施しており、社会の研
究活動の高度化、新技術の開発に寄与しています。

社会・産業界との架け橋

産業界との架け橋である産学連携本部では、学内
の研究情報の発信や技術移転活動を行うとともに、
企業からの技術相談などを随時受け付けています。

創成研究機構、産学連携本部がある北キャンパス
エリアでは、研究成果を産業に応用するための施設



北海道大学北キャンパス

が集まったサイエンスパークを形作っており、研究
開発を事業化・実用化に結びつけるための支援活動
を行う「コラボほっかいどう」や、ベンチャー企業などが
新事業を目指した研究開発を行う「北大ビジネス・ス
プリング」といった学外機関も参加し、新産業の創出
による北海道の活性化を目指すとともに、国際的に
卓越した研究拠点作りを共に推進しています。

 北海道大学では、様々な研究成果を社会に発信しています。詳しくはホームページをご覧ください。

研究者の連絡先など▶大学情報DB <http://hecate.general.hokudai.ac.jp/welcome/top-page-jpn.html>
研究情報や技術相談▶産学連携ワンストップ窓口 <http://www.mcip.hokudai.ac.jp/>
学術論文▶学術成果コレクション(HUSCAP) <http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/>
講義資料や講演▶オープンコースウェア <http://ocw.hokudai.ac.jp/>



一人ひとりの最適な学びを実現する、 特色ある入試と教育。

あらゆる学問の基礎を固める初年次教育を土台に、
学部での専門教育、高度な学術とプロフェッションを追求する大学院教育を実践。
「総合入試」の導入に合わせてさらに充実した学修や進路選択へのサポート体制で、
学生一人ひとりの最適な学びを実現し、大志ある人材を育成します。

幅広く学びながら、じっくり学部を選ぶ「総合入試」

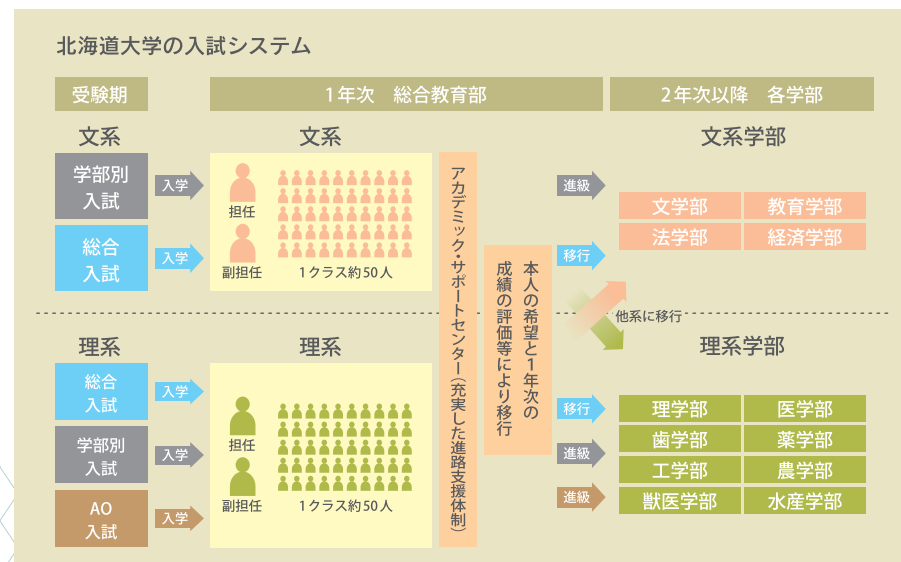
「総合入試」は、これまでの学部別入試(進学希望の学部ごとに受験する制度)に加えて、2011年度から導入した入試制度です。総合入試で入学した学生は、自分の希望と1年次の成績によって2

年次に進級する学部が決まるので、幅広く教養科目や基礎科目を学びながら、より自分に合った進路を選択することができます。

メリット 1 入学後に学部をじっくり選べるから、ミスマッチを回避できる。

メリット 2 高校で履修していない科目もしっかり学習できるから、進路の選択肢が広がる。

メリット 3 学問分野の複雑さ・多様さを学び理解できるから、幅広い視野で進路が選べる。



※学部別入試及びAO入試による入学者は、2年次進級時に学部を変更することはできません。

学びのコアを育てる初年次教育

学士課程では、入学後全ての学生が総合教育部に所属し、1年次を中心に行われる「全学教育」を履修します。この全学教育は、「コアカリキュラム(教養科目)」と「基礎科目」という2つの科目からなり、特に総合入試の導入により重要性が高まった学びのコア(核)を育てるコアカリキュラムは、教員が総力を挙げて「専門家による最良の非専門教育」と位置付け、その実施に取り組んでいます。幅広く充実した初年次教育により、その後に進学した学部で行われる専門教育や、大学院での高度な学問研究において、自立して学び続ける力を育てています。

プロフェッショナルを育てる 大学院教育

北海道大学は、大学院博士課程を教育の最終目標にすえ、最先端の研究を牽引力として教育研究を行い、地域社会、産業界との連携を深めていく大学院重点化大学です。そのため、大学院を中心に教育研究組織を構成し、学部体系的な基礎重視型の教育の後に、大学院ではよりいっそう高度な専門教育・実践教育を行っています。この大学院教育によって、優れた研究者の養成とともに、専門職業人として社会に寄与する自覚と能力を培っています。



最適な進路選択をサポート

アカデミック・サポートセンターでは、若手研究者である専門のスタッフや経験豊かな教職員が学修上の相談に応じるほか、専門のスタッフと大学院生のチューターが、教科の疑問点の解消や、自習の手助けなどを行う学習サポートを行っています。総合入試の導入によって広がった進路選択と初年次教育の充実のため、学生一人ひとりに合った支援を行っています。



地域別学部入学者数 (2011年度)

北海道	1,203人 (46.2%)	関東	447人 (17.1%)
東北	156人 (6.0%)	近畿	268人 (10.3%)
北陸・中部	324人 (12.4%)	九州・沖縄	60人 (2.3%)
中国・四国	123人 (4.7%)	その他 (高等学校卒業程度認定試験・帰国子女・留学生)	25人 (1.0%)



健やかで充実した学生生活を、 さまざまな支援で後押し。

北海道大学では、学生が多くの仲間と出会い、やりたいことにチャレンジできるように、課外活動に対するさまざまな支援を行っています。さらに、学生一人ひとりのニーズに合わせて、学生生活や就職活動をきめ細やかにサポート。健やかで充実した学生生活を通じて自主性を培い、大志ある人材を社会に輩出しています。

学生の自主活動を応援

充実した学生生活には、学生自らが発案・計画・実施・反省する自主活動が欠かせません。北海道大学には、体育系・文化系合わせて114の公認学生団体があり、キャンパス内にある運動場やサークル会館で、大いに課外活動に励むことができます。また、学生の自由な発想を応援する「北大元気プロジェクト」では、北海道大学を活気づけるようなアイデアを募集。毎年20団体程度の企画を採択し、費用面などで活動をサポートしています。

学業成績が優秀な学生や、課外活動・社会活動で活躍・貢献した学生への奨励金・表彰制度も充実しています。

※2011年6月現在

健やかな学生生活を支援

周りに言えない悩みや困りごとを抱えてしまった学生には、先輩学生に気軽に相談できる「ピアサポート室」や、臨床心理士のカウンセリングを受けられる「学生相談室」が役立ちます。学生の健康を管理する「保健センター」も含めて、各相談窓口が互いに連携をとりながら、健やかな学生生活を支援しています。



大志ある学生を社会へ

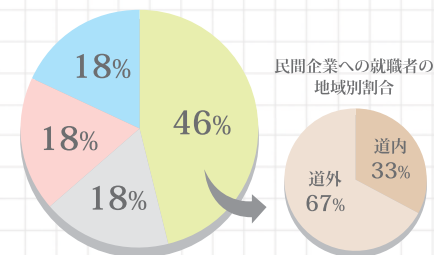
総合大学である北海道大学の学生の就職先はさまざま。学生生活を通じて学生が自らの進路について考え、行動し、選択するために必要なキャリア支援を行い、産業界、官公庁、国際機関など多様な場で活躍する人材を輩出しています。

2010年度卒業・修了者就職等状況

2011年5月1日現在

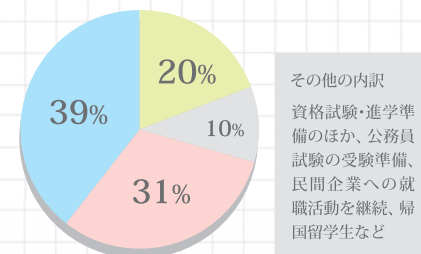
文系の学部卒業生

(文学部/教育学部/法学部/経済学部)



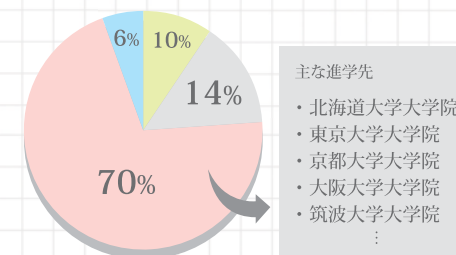
文系の大学院(修士課程)修了者

(文学研究科/法学研究科/経済学研究科/教育学院/国際広報メディア・観光学院)



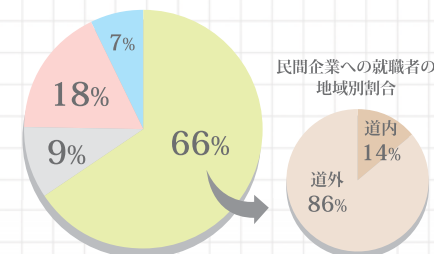
理系の学部卒業生

(理学部/医学部保健学科/薬学部/工学部/農学部/獣医学部/水産学部)
※医学部医学科・歯学部は除く



理系の大学院(修士課程)修了者

(医学研究科/工学研究科/情報科学研究科/水産科学院/環境科学院/理学院/農学院/生命科学院/保健科学院)

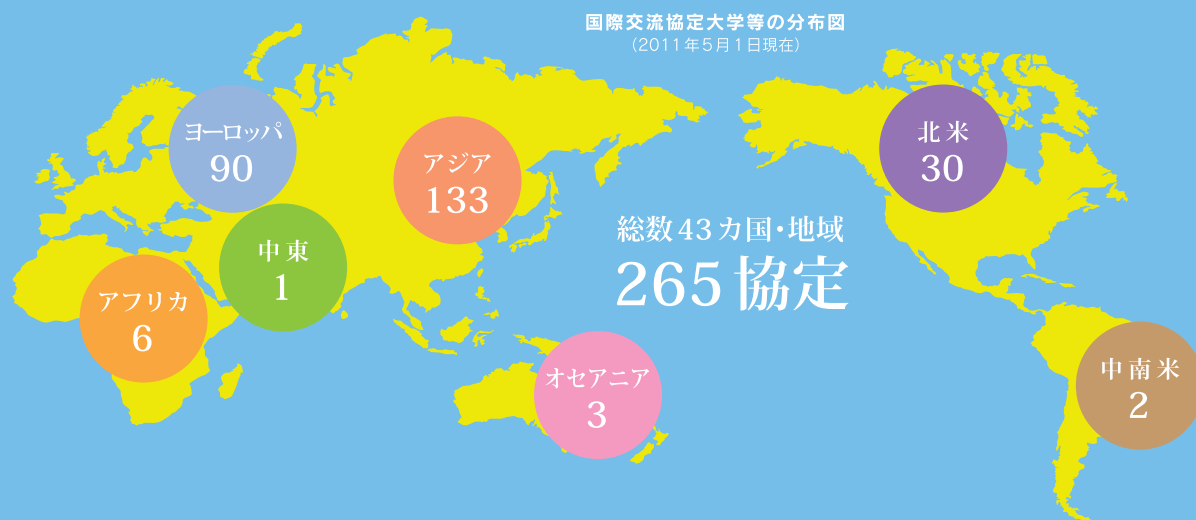


卓越した人材を世界中から惹きつけ、 教育研究成果で世界に貢献。

卓越した人材、最先端の技術を惹きつけ、惹きつけた資源を活用して教育と研究で世界に貢献する—これが、北海道大学の目指す国際化です。

2010年には、キャンパス国際化の加速を狙い「国際本部」を設置。

国際本部は、世界の叡知を迎え入れるためのよりよい環境作りの推進、積極的な国際広報、海外ネットワークの強化、日本語教育・短期留学受け入れプログラムの開発・実施などを行っています。



短期留学プログラムで来日し、北海道大学で学ぶ各国の留学生



ポートランド州立大学短期語学研修プログラム集合写真

グローバルな知性が集う 国際色豊かなキャンパス

緑豊かなキャンパスには、世界中から多様な価値観を持つ学生・研究者が集います。北海道大学は世界43カ国・地域の機関と265の国際交流協定を結び、86カ国・地域から1,340人の外国人留学生を受け入れています。外国人職員数は590人に上ります。

多数の外国人留学生・研究者の受け入れに加え、日本語・外国語教育の充実を図るとともに、英語による授業や世界水準の研究環境を提供しており、キャンパスは国際色に溢れています。

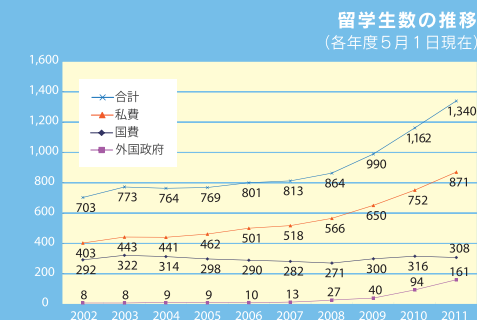
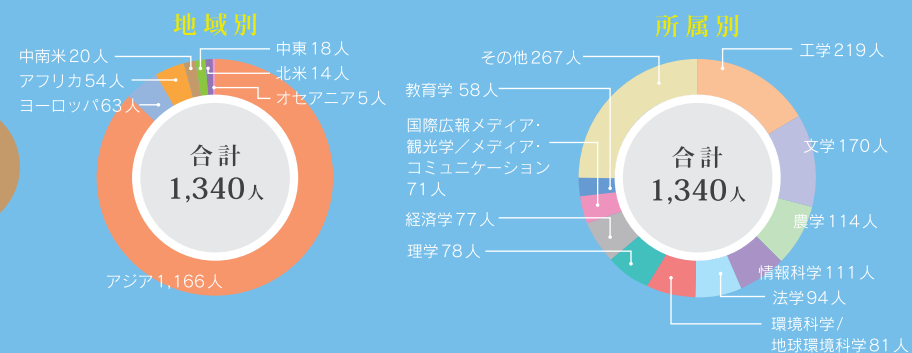
※1※2：2011年5月1日現在 ※3：2011年6月1日現在



世界へ踏み出す学生への 手厚い送り出しサポート

北海道大学の教育研究の4つの基本理念の一つに「国際性の涵養」があります。この理念に基づき、国際本部は、①目的に沿って選べる多彩な海外留学プログラムの提供、②留学に関する各種の情報提供、③留学生と一緒に英語で学ぶことができる「国際交流科目」の開講など、世界への一歩を踏み出す学生を積極的に支援しています。これにより、学生は北海道

大学のキャンパスにいながらにして国際的な経験と留学への自信を身につけられます。



経費節減、経営資源の効率的活用に努め さらなる発展を目指す。

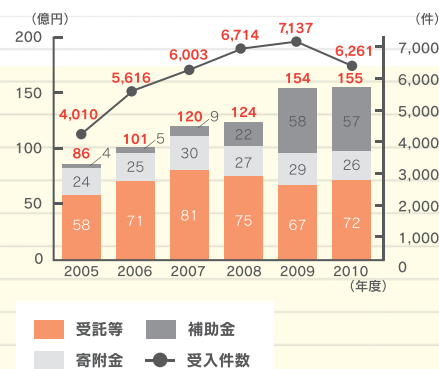
北海道大学は、業務運営の財源として国から交付される運営費交付金、附属病院の業務収益、学生の授業料などの学生納付金、補助金や寄附金といった外部資金などの収入を、大学運営のための人件費、教育・研究などの経費、病院の診療経費などに支出しています。収入の多くを占める国からの交付金が、毎年一定額が削減されている中で、経費を節減し経営の効率化に努力しています。

自主性・自立性を発揮するために、 自主財源獲得に努力

大学が個性あふれる教育研究活動を行うためには、外部要因に左右されない強固な財務基盤の確立が必要不可欠です。北海道大学では、産学連携を強化し、外部資金の受入総額を6年間で1.8倍に増加させました。

外部資金には、大学の研究者が企業などから委託を受けて研究を行う「受託研究」や、事業を行う「受託事業」、共同で研究に取り組む「共同研究」、企業や個人から受ける「寄附金」、研究教育拠点形成のための「補助金」などがあります。

外部資金の受入総額の推移
(2005～2010年度)



業務実施コストは 6年間で58億円減少

国立大学法人では、納税者である国民のみさんから財産(税金・土地・建物等)の付託を受け、業務を行っていますので、その最終的な負担額を明示するために「業務実施コスト計算書」を作成しています。附属病院の増収努力や外部資金の受入拡大による、自己収入増加等の経営努力の結果、この業務実施コストは6年間で58億円減少しました。

2010年度の業務実施コストは429億円で、国民の皆様一人あたりに換算したコスト負担額は約337円となります。

創基130年目の挑戦 「北大フロンティア基金」

北海道大学は、創基130年目にあたる2006年に、これまで以上に自主性・自立性を発揮するため、独自の基金である「北大フロンティア基金」を設立しました。目標額50億円を掲げているこの基金は、設立以来多くの方々からのご支援により、これまで約21.2億円の寄附金が寄せられています。これらは、学生の課外活動や就職活動への支援をはじめ、留学生・国際交流、研究、社会貢献活動、卒業生や産業界との連携、学部等、施設・環境整備などさまざまな分野に役立っています。

※2011年8月31日現在

北海道大学の財務活動を家計簿に見立てた場合

収入

運営費交付金、附属病院、学生納付金、外部資金などで構成されます。

運営費交付金 350億円

大学の業務運営の財源として、国から交付されます。収入の約4割を占めています。法人化後7年間で81億円減少しています。

附属病院 242億円

患者数の増加や病床稼働率の向上などの経営努力により、前年度比8億円増加しています。

学生納付金 100億円

内訳は、授業料83億円、入学料14億円、検定料3億円です。収入の約1割を占めています。

外部資金 125億円

補助金や寄附金、受託研究等の獲得額増加のための積極的な施策を講じています。

⋮

支出

人件費、教育・研究等経費、診療経費、受託研究・事業費、一般管理費などで構成されます。

人件費 453億円

「人が財産」である大学にとっては最大の費用で、支出の約5割を占めています。業務の効率化などにより、毎年抑制に努めています。

教育・研究等経費 148億円

学生に対して行われる教育に要する経費や、教員の研究などに要する経費です。教育水準の維持向上や卓越した学術研究の推進に努めています。

診療経費 132億円

大学病院における診療の実施に要する経費です。病院収入の増加を図る中で、抑制に努めています。

受託研究・事業費 70億円

外部から委託を受けて行う受託研究・事業や、民間等から研究者及び研究費を受け入れて共同で行う研究に要する経費です。

一般管理費 32億円

管理運営に要する経費です。抑制により前年度と比較して5億円減少しています。

⋮

881億円

848億円

収入

支出

= 33億円

国への借金返済
(附属病院の借入金)

22億円

繰越事業
(使途限定)

11億円

地域とともに歩み、 地域に開かれた大学。 公開講座やセミナーも充実。



総合博物館は 注目企画が目白押し

北海道大学開学以来の貴重な学術標本資料や芸術作品を整理・保存している総合博物館では、その膨大な資料の一部を、常に一般の皆様に公開しているほか、年に幾つかの企画展示を行っており、いつでもその知識の宝庫に触れていただくことができます。旧理学部本館を利用したその建物は、1929(昭和4)年11月に竣工したもので、重厚さと歴史の風合いを備えており、それ自体が価値ある資料ともいえます。

科学技術の魅力を 伝えるスキルを修得

大学で取り組んでいる科学の技術や知識は、専門知識を持っていない人には伝わりにくいものです。科学技術コミュニケーション養成プログラム(CoSTEP)では、それらをより分かりやすく、広く伝えることができる人材を育成しています。

コーヒーを片手に 気軽に学べる機会も

北海道大学では、キャンパスの外でも講義イベントを実施しており、なかでも気軽さが人気のサイエンス・カフェ。飲み物片手にリラックスしながら、科学の話を聞いたり、意見交換したりすることができ、予備知識がなくても気軽に参加いただけるイベントです。

腰をすえて受講できる 「公開講座」

北海道大学が実施する公開講座は多様です。健康について学んだり、旅のことを考えたり、森を探検したり…日常や自然のことから文化や政治まで、さまざまな分野の講座を開講しています。何かについてしっかり学んでみたいとお考えの方は、北海道大学の公開講座をチェックしてみてください。



自学自習に生かせる 膨大な蔵書

2011年7月に新棟がオープンした附属図書館本館は、約165万冊の蔵書を収めた「知の拠点」。2階から5階の閲覧室は、利用者のニーズに応える様々な工夫を凝らしています。所定の手続きにより、一般の皆様も閲覧・貸出のサービスをご利用いただけます。



気軽に参加可能な 各種セミナーも充実

気軽に参加いただける、各種セミナーも数多く開催しています。学内にある「学術交流会館」などで行われ、多くの場合は無料・申込不要です。北海道大学のウェブサイトなどをご覧ください、気になるものがあればお気軽に足を運んでください。

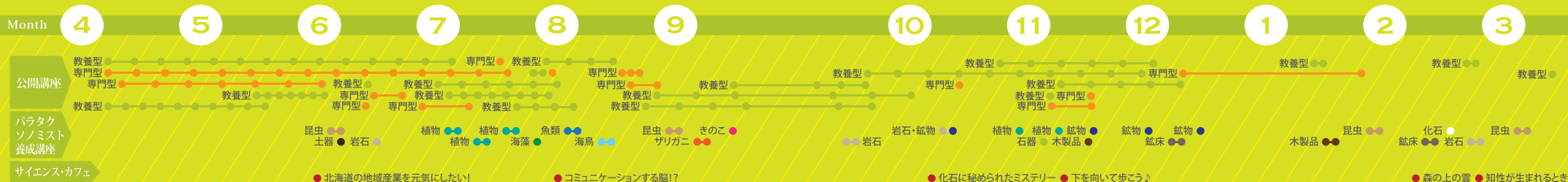


役に立つ分類学の 専門的な講義も

分類学の専門講義もあります。総合博物館では毎年、植物、魚類、昆虫、きのこ、土器などさまざまな分野における準分類学者(パラタクソノミスト)の養成講座を行っており、専門的な機器や知識を使った学問を体験することができます。

年間イベント開催例

※2010年度の例。このほかにも数多くのセミナーなどを開催しています。



人口190万都市の中心部にある、 歴史の趣と緑豊かなキャンパス。

北海道大学の構内には、明治時代から現存する歴史ある建造物や、博物館といった知の集積・学びの場が点在しています。
大学そのものが札幌を代表する観光スポットともなっている、全国的にも珍しいキャンパスです。



インフォメーションセンター「エルムの森」
正門入ってすぐ左手の、木のぬくもりを生かした明るい建物です。各種ご案内や北海道大学認定グッズの販売、カフェの営業を行っています。
開館時間 8:30～17:00
(年中無休 ※年末年始を除く)



中央ローン
サクシュコトニ川が流れ、夏には木々のなかで涼むことができます。春には色鮮やかなサクラが満開となる、学生や市民の憩いのスポットです。



クラーク像
札幌農学校初代教頭・クラークの胸像。台座にはクラークの自署が記され、オオオニバスの葉がデザインされています。像の高さは272cmです。



古河講堂
真っ白な木壁と屋根の赤と緑のコントラストが美しい建物で、明治時代から現存する歴史的建造物のひとつです。(外観のみの見学となります)



農学部
札幌農学校の流れをくむ農学部。ハルニレの木々と調和した、重厚感を与えるタイル張りの外壁と正面玄関のアーチが美しく、時計塔が目を引きまします。(外観のみの見学となります)



総合博物館
開学以来の400万点にも及ぶ貴重な学術標本・資料が展示されています。大学の歴史展示コーナーも。
開館時間 10:00～16:00(休館 月曜・年末年始)
◆夏季(6/1～10/31)は9:30～16:30に延長



イチョウ並木
北13条通の両側に、70本のイチョウが植えられています。約380m続く並木は、黄金色に輝く10月下旬～11月上旬が見頃です。



ポプラ並木
約250mに計72本のポプラがまっすぐ伸びており、北海道大学のシンボルともなっています。約80m散策できます。



モデルバーン(札幌農学校第2農場)
クラークの発想と指導により建設された北海道畜産発祥の象徴であり、洋式農業技術普及の原点です。日本最古の洋風農業建築であり、重要文化財に指定されています。

解説パネル MAP

北海道大学の歴史的建造物や植物の生態などについてより深く知っていただくために、札幌キャンパスの各所に解説パネル(日本語/英語併記)を設置しています。気になるパネルがありましたら、ぜひ現地に足を運んでみてください。

※このほか、キャンパス内には構内遺跡の代表的な調査地点に設置した解説パネルがあります。

